

【熊本日日新聞社賞】

故郷の宝

御船町立御船中学校 2年 東 美結

道徳の授業で「橋にかけた夢」を学習し、森慈秀さんが、なぜこんなにも橋の建設にこだわったのかを考えました。それは、おそらく自分の郷土、天草の人々の生活のためなのではないかと思いました。森慈秀さんは郷土愛がとても深い方だと思ったからです。

この学習の中で、私は森さんの郷土に対する気持ちを自分自身の体験と重ねて考えてみました。私の故郷は御船町の七滝です。私はこれまでに自分の住んでいる地域の伝統芸能をたくさん受け継いできました。小学校では「しし舞い」「とら舞い」「能かん太鼓」「新風太鼓響」、中学生になってからは「神楽」を受け継いでいます。五つともすべて、地域の方々の郷土芸能に対するたくさんの思いが詰まっていますが、次の世代に受け継ぐ人がおらず、一度は途絶えてしまいそうになりました。

そこで、私の母校である七滝中央小学校の子どもたちで受け継ぐことになりました。小学校では伝統芸能を受け継ぐことと同時に、学習も行いました。伝統芸能の歴史や完成に至るまでの地域の様子、今まで受け継いでこられた方々の気持ち、そして、一度途絶えてしまいそうになったということなどを知ることができました。これからの伝統芸能はまさに故郷の宝だと、私たちは感じました。それから、「しし舞い」「とら舞い」「能かん太鼓」「新風太鼓響」を保存会の方々や上級生から教えてもらい、地域の祭りや運動会、卒業式などで披露しました。

ときには、練習が辛くなり、さぼってしまおうと思ったこともありました。しかし、私一人が抜けてしまったら、この伝統芸能は成り立たないのです。みんなの心がひとつになったとき、はじめて、踊りや太鼓が完成するのです。汗が流れ、声が枯れても、私たちはへこたれません。舞い終わったとき、大きな拍手をもらった瞬間の喜びは忘れられません。みんなが笑顔になり、みんなが喜ぶ、こんな伝統芸能を引き継ぐ私たちは幸せです。

中学生になった今でも、地域の方から「神楽」を教えてもらっています。中学生になり、勉強や部活動もいそがしくなる中で練習時間が減り、大変で難しいですが頑張っています。私の中にある故郷を大切に思う気持ちは、日に日に大きくなり、地域の伝統芸能をしっかりと受け継ぎ、途絶えないように次の代に繋げていきたいという強い気持ちが私たちを支えています。

私はこれから、道徳の時間に学んだ森慈秀さんの生き方のように、地域の方々のため、大切な郷土のため、伝統芸能を大切に守っていこうと思います。そして、次に受け継ぐ人に伝え、郷土を愛する気持ちが広がっていくようにしたいです。